



カタカタ通信

第222号

「抱卵は順調、さて卵は？」

2026年3月30日

花は4つの卵を産み、順調に抱卵しています。昨年の抱卵時間は空
フィフティ・フィフティ
と花でほぼ50：50でしたが、今年は花の方が多く抱卵しています。この夏から秋にかけては例年より食欲旺盛でしたが、それもこの時期のために準備していたかのように思えるほど、餌よりも抱卵を優先している様子です。昨年は途中までではありましたが、育雛をしたことで繁殖に向けての経験値が上がったのかもしれませんが。



卵を守る気合が伝わってくる花

その後、検卵を行うため、花の産んだ卵を擬卵と交換しました。卵を回収するには、親鳥に巣台から動いてもらわなければなりません。昨年は、すぐに逃げてくれたので交換しやすかったのですが、今回はすぐには動かず、巣台で卵を守っています。無理に追ってしまうと、バタついて卵が割れる心配があります。エサやりパイプのあるスロープから巣台に近づくと、うまく逃げてくれました。

卵の様子を確認するため、回収した4卵に暗室で光を当てて検卵しました。今年も残念ながら、卵の中の成長は見られず、無精卵と判断しました。念のため1週間ほどふ卵器で観察しましたが、結果は変わらずでした。



検卵の様子 光で透かして中を確認

しかし、まだ今シーズンは終わりません。昨年同様、托卵作戦に臨みます。その結果は、次の回に…。

置いた観察リモコンをバトン代わりに、受け継いだ者のカタカタ通信をお楽しみに。

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：しみじい